

講義名	対)中国語資格試験準備 A		
担当教員	白根 理恵		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2

主 題 と 概 要

初級中国語既習済みのレベルの学習者を対象とした授業。基礎中国語の徹底理解は中級に向けて必要なものである。このクラスでは学期前半この基礎中国語の応用練習がメインとなる。重点語法を使った練習問題を適宜配布し、文法の理解を徹底させ、簡単な作文をかけるようにする。ヒアリング練習は配布する教材を用いて行う。既習の文法、文型を応用してより複雑な中国語表現練習を行う。基礎文法の定義は中国語検定試験4級レベルと合致しているためこの授業では4級受験が可能な授業内容となる。

到達目標

初級文法の基礎固めを行い、リスニングとともに検定4級合格ラインに達するようになる。主に文法と作文がメインであり、リスニングはディクテーションによる理解ができるようになる。
オンラインでの受講では、到達目標を達成することが難しい科目であるため、オンデマンドでの開講はしない。但し、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生への対応については学校の指示に従う。

提出課題

毎回定量的な問題を準備しているがやり残しの部分を課題（課題）として提出。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

課題に対する解答解説は必ず次の授業で行う。形式はさまざまであるがプリントに記載した形で解答を示す場合もあるし、時間がある場合問題形式を変えて復習させるときもある。どちらにせよ、課題のフィードバックであることを伝えるので学生側の混乱はないと考える。

評価の基準

平常点30%。
学期末試験70%。
平常点は小テスト(10%)、課題提出(10%)、授業態度(10%)によって決まる。授業欠席日数が3分の1を超えると学期末試験を受けることができない。検定試験の可否及び出席率は評価基準に入れない。

履修にあたっての注意・助言他

基礎文法の構造理解は語学の基礎となるのでこれをクリアできれば中級、上級の習得が非常に楽になります。高い目標を持って頑張ってください。授業は前回の授業内容を前提に組み立てられている。徐々に難易度が上がっていく形式なので授業を欠席すると理解できなくなる可能性が高い。質問はできるだけ授業内にしてほしい。情報の共有という意味で自分の質問は他の受講者にとっても有益だと認識すること。

教科書	.使用しない。			
プリント資料及び参考文献	特になし			

授業計画

1. 声調発音練習。初級文法前半のまとめ
2. できる表現 能、会、可の相違。存在文の有と在。所有の有についてのまとめ。声調発音練習。
3. 総括文 10以上の数字とお金の単位。 声調発音練習。
4. 結果補語と方向補語。 声調発音練習。
5. 1～4のまとめ。巻き舌発音練習。
6. 時量補語と時間副詞の扱いについて。前置詞の用法と前置詞のまとめ。巻き舌発音練習。
7. 状態持続の着と進行の在の扱いについて。 有無気音の発音練習。
8. 複合補語と是、的。有無気音の発音練習。
9. 存現文・可能補語。
10. 6～9のまとめ
11. 使役文。近未来の表現。
12. 受け身文。短文による発音練習。
13. 動量補語、時量補語、数量補語と了の関係について。
14. 連発修飾語的の応用。連発修飾語の用法。長文読解
15. 総括まとめ。検定過去問題の練習

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回定量的な問題を準備しているがやり残しの部分を課題（課題）として提出。
単語、漢字、復習等は自習が基本。
毎回の授業に関しては少なくとも4時間弱の準備学習が必要。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目は2年生から履修可能な外国語関連科目で、中国語の語学力の向上を図るとともに、グローバルの視点から海外の社会や文化をより広く深く学ぶことができます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

特になし

実務経験の有無及び活用

特になし

備考

教科書は使用しない。
毎回学習プリントを配布する。